

『私のランタン』を読んで」

4年 A.N

恵泉女学園は創られるべき学校であった、ということはずっと河井道先生だけは信じていて、イエス様だけが知っていたのかな。私はこの本を読み終えて最初にそう思いました。新渡戸博士夫妻や河井道先生の親友の方々でさえも「学校を創るのはやめておいた方が良く」と言いました。私だったら学校を創ることをあきらめていたと思います。しかし河井道先生は違いました。自分の学校を始めるべきだと強く信じ、今までの自分のたくさんの経験は学校を創るためのものだったのだと思ひさえした、と書いてありました。こんなにも強い思いを持つことが出来たのは、イエス様がこの道に導いて下さると河井道先生が信じていたからなのではないかと思いました。きっと半年前までの私ならそう思う事はなかったと思います。

ちょうどその頃私は部活のこと、友人のこと、勉強の事、たくさんのことで悩んでいました。今までの、短いですが、私の十五年間の人生の中で一番たくさんの悩みを持っていた時期だったと今ふり返って思います。そんな時、ひよんなことからある牧師さんから話を聞くという機会がありました。話を聞くことをこんなにも大切にすることは初めて、というほど素敵な時間を持つことができました。たくさん悩んで辛いこともあったけれど、今の私が考えた中で一番良いと思える選択をすることが出来、悩みはなくなりました。悩みがなくなったのは絶対 100%イエス様のおかげだ！！とは思いません。でも、きっと牧師さんから話を聞き、話を聞くことの大切さがわかっていなかったら全然違う選択をしていたのだろうな、とは思います。そして、悩みがなくなってから人と出会い話を聞くという機会がすごく増えました。新しく出来た大学生の友達の方々、世界平和のため発展途上国で活躍している方、全然違う環境で生活してきた何人もの中高生の人達と仲良くなり、話し合うという機会もありました。他にもたくさんの人と出会い、私とは違った考えを持った人の話を聞きました。そんな話はどれも魅力的で、私は人の気持ちや意見、考えを聞くことが大好きになりました。私がこう思うようになったのも恵泉女学園に入学し、キリスト教に触れる機会が出来たからだと思います。

そんな中、「わたしのランタン」の中で一カ所気になる所がありました。それは河井道先生が恵泉女学園を創ってから一年たち、場所を変えることとなった時の理由です。生徒が増えたので、入りきらなくなるという事ももちろんあると思います。しかし問題はもう一つの「近隣の苦情のたねをますます作るようになったから」というものです。河井道先生が近所の迷惑にならないように移ったはずの場所で、今私達のせいで苦情が来てしまっています。昨年度一年間生徒委員をやらせて頂いた中で初めて知ることがありました。「地域班」というものを作り、毎週毎週どうしたらみんなが静かに通学するようになるのか、とか、近所に住んでいる方から恵泉に良い印象を持ってもらえるようにするにはどうすれば良いのか、などについて話し合い実行に移しているということです。中学二年生まではそんな事は一切知りませんでした。そして、知ろうとも思いませんでした。他人事のように

に苦情が来ているという話を聞いていました。この中二の時の私のような人がいたら、どんなに他の人が頑張っても限界があるように思います。本当に本当に少しでいいからみんなが、恵泉生全員が意識を持てば、恵泉は今よりも素敵な学校になるのではないかなと思います。胸を張って河井道先生に、「私たちが今の恵泉生です」と言える人になり、「これが今の恵泉女学園です」といえる学校にしていきたいと思います。